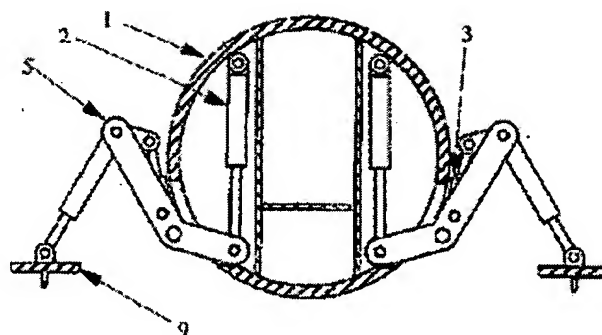


PLANNING TYPE HIGH SPEED VESSEL

Patent number: JP2002193181
Publication date: 2002-07-10
Inventor: UEDA TOMIO
Applicant: UEDA TOMIO
Classification:
- international: B63B1/18; B63B1/30
- european:
Application number: JP20000404930 20001227
Priority number(s): JP20000404930 20001227

Abstract of JP2002193181

PROBLEM TO BE SOLVED: To navigate the water surface of rough waves at high speed by allowing a hull to float high to plane while a conventional a hydrofoil type high speed vessels has a limit in speed and a type of spraying air to the water surface can navigate only the water surface of quieter waves than the hydrofoil type. **SOLUTION:** A folding cylinder 2, a folding cylinder 3 and a folding leg 5 mounted with a cover 4 for lowering wind resistance, are mounted on the hull 1, or a long 6 is mounted to an expanding/contracting cylinder. A spring 7 and a shock absorber 8 are mounted to a part of the leg, and a gliding plate 9 is mounted at the tip.



Data supplied from the esp@cenet database - Worldwide

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号
特開2002-193181
(P2002-193181A)

(43) 公開日 平成14年7月10日 (2002.7.10)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テームコード* (参考)
B 6 3 B 1/18		B 6 3 B 1/18	Z
1/30		1/30	

審査請求 未請求 請求項の数 3 書面 (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願2000-404930 (P2000-404930)

(22) 出願日 平成12年12月27日 (2000. 12. 27)

(71) 出願人 500096190

上田 富男

大阪市淀川区西宮原 2-6-16-338

(72) 発明者 上田 富男

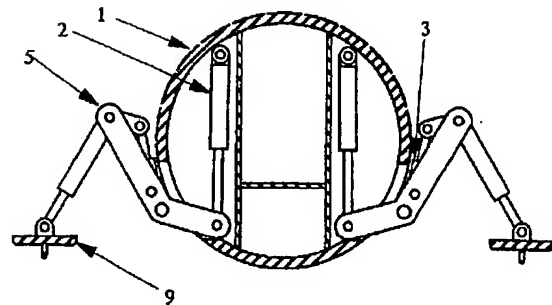
大阪市淀川区西宮原 2-6-16-338

(54) 【発明の名称】 水面滑走型の高速船

(57) 【要約】

【課題】 従来の高速船で水中翼型のものは速度に限界があり、空気を水面に吹き付ける方式は水中翼型より波の穏やかな水面しか航行できなかったため、船体を高く浮かし、水上を滑走することにより、波の荒い水面を高速で航行できるようにする。

【解決手段】 船体1に折り畳み用シリンダ2と折り畳み用シリンダ3、風抵抗を低下するカバー4を取り付けた折り畳みする脚5または伸び縮みするシリンダに脚6を取り付け脚の一部にスプリング7とショックアブソーバ8を取り付け、その先端に滑走用板9を取り付ける。



【特許請求の範囲】

【請求項１】 船体（１）に折り畳み用シリンダ（２）と折り畳み用シリンダ（３）、風抵抗を低下するカバー（４）を取り付けた折り畳みする脚（５）または伸び縮みするシリンダに脚（６）を取り付け、脚の一部にスプリング（７）とショックアブソーバ（８）を取り付け、その先端に滑走用板（９）を取り付けた水上滑走型の高速船。

【請求項２】 船体（１）、または姿勢安定翼（１０）に航空機用推進装置（１１）を取り付け、方向を変える為の翼（１２）を取り付けた請求項１記載の水上滑走船。

【請求項３】 船体（１）遠心力を利用した姿勢安定装置（１３）を取り付けた請求項１記載の水上滑走船。

【発明の詳細な説明】

【０００１】

【発明の属する技術分野】本発明は、水上滑走型の高速船に関するものである。

【０００２】

【従来の技術】従来の高速船は造波抵抗を小さくするため、水中翼により船体を浮かすか、空気を水面に吹き付け船体を浮かしていた。

【０００３】

【発明が解決しようとする課題】従来の高速船で水中翼型のものは速度に限界があり、空気を水面に吹き付ける方式は水中翼型より波の穏やかな水面しか航行できなかった。

【０００４】本発明は、船体を、水中型より高く浮かし、水上を滑走することにより、波の荒い水面を高速で航行することを目的としている。

【０００５】

【問題を解決する為の手段】上記目的を達成するために、本発明の高速船においては、船体に折り畳める脚、または伸び縮みする脚を取り付け、その先端に滑走用板を取り付け、水面に接触しない部分に姿勢安定翼を取り付け、船体または姿勢安定翼に航空機用推進機を取り付けた水上滑走型の高速船である。

【０００６】

【発明の実施の形態】発明の実施の形態を実施例にもとづき図面を参照して説明する。図１、図２、図３、図４、図５において、船体１に折り畳み用シリンダ２と折り畳み用シリンダ３、風抵抗を低下するカバー４を取り付けた折り畳みする脚５または伸び縮みするシリンダに脚６を取り付け脚の一部にスプリング７とショックアブソーバ８を取り付け、その先端に滑走用板９を取り付ける。

【０００７】図６、図７において、船体１、または姿勢安定翼１０に航空機用推進装置１１を取り付け方向を変える為の翼１２、遠心力を利用した姿勢安定装置１３を

取り付ける。

【０００８】

【発明の効果】本発明は、以上説明したように構成されているので、以下に記載されるような効果がある。

【０００９】このようにすれば航行時、水面滑走板は船体の幅より広くなるので、安定性が増加する。

【００１０】水面と船体の間隔が広がるので、荒天時において船体に波があたりにくくなるので航行できる。

【００１１】ショックアブソーバとスプリングにより波の高さの変化を吸収できるので船体に波の影響を伝えにくくなり、乗り心地がよく、荒天時に航行することができ

【００１２】水面を滑走するので水の抵抗が少なく、水中翼型より高速で航行することができ、燃費を削減できる。

【００１３】姿勢安定翼により、安定を保つことが可能となるので、高速航行が可能となる。

【００１４】姿勢安定装置により、さらに安定性が増すので、より高速で航行することが可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図１】 停止時の折り畳み脚の進行横方向脚取り付け部断面図である。

【図２】 航行時の折り畳み脚の進行横方向脚取り付け部断面図である。

【図３】 停止時の伸び縮み脚の進行横方向脚取り付け部断面図である。

【図４】 航行時の伸び縮み脚の進行横方向脚取り付け部断面図である。

【図５】 スプリング、ショックアブソーバ取り付け部詳細断面図である。

【図６】 水上滑走の高速船走行時側面図である。

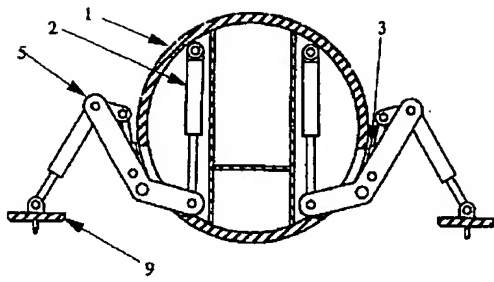
【図７】 水上滑走の高速船走行時上面図である。

【図８】 姿勢安定装置の進行横方向取り付け部断面図である。

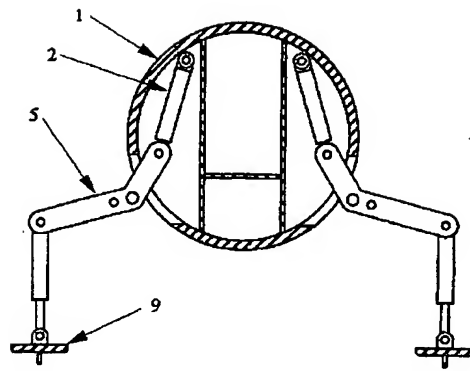
【図９】 姿勢安定装置の進行方向取り付け部断面図である。

- １ 船体
- ２ 折り畳み用シリンダ
- ３ 折り畳み用シリンダ
- ４ 風抵抗を低下するカバー
- ５ 折り畳みする脚
- ６ 伸び縮みする脚
- ７ スプリング
- ８ ショックアブソーバ
- ９ 滑走用板
- １０ 姿勢安定翼
- １１ 航空機用推進装置
- １２ 方向を変える為の翼
- １３ 遠心力を利用した姿勢安定装置

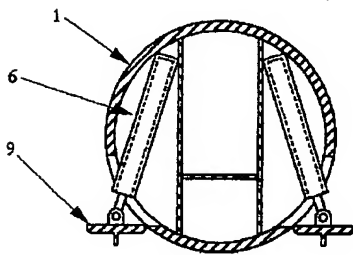
【图1】



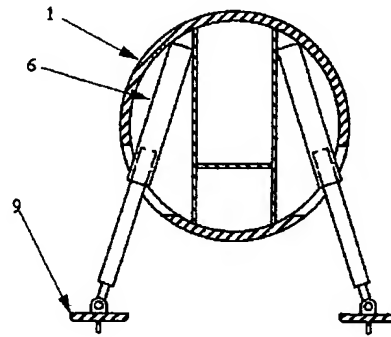
【图2】



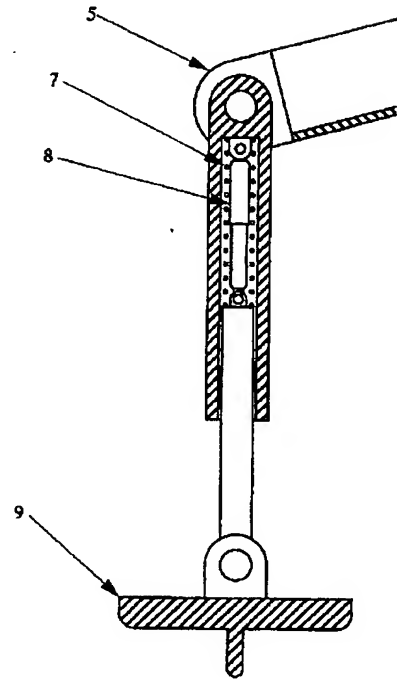
【图3】



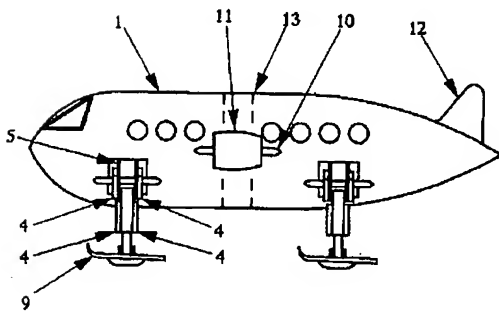
【图4】



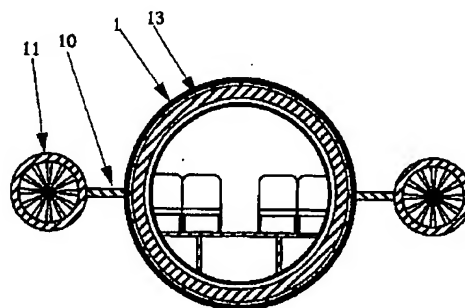
【图5】



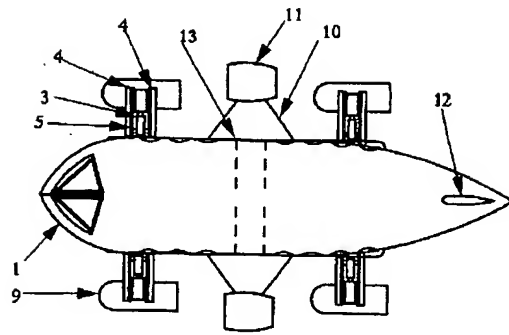
【图6】



【图8】



【图7】



【图9】

